

第5回日本平公園基本計画改定専門委員会 議事録

1 日 時 令和8年5月 15 日(金) 午後1時 30 分～午後4時 00 分

2 場 所 札の辻クロスホール

3 出席者

<委員>

五十嵐誠委員長、寒竹伸一委員、平松玲治委員、森川高行委員、池谷則義委員、関貴夫委員、小野良平委員、森田委員

<事務局>

小澤公園建設管理課長、杉村主幹、石塚副主幹、柳生係長、鈴木主査、藤崎主事、大滝会計年度任用職員

4 傍聴人 1人

5 議事

(1)開会

(2)議事

・静岡市日本平公園基本計画改定計画書(案)について

(3)閉会挨拶

(4)閉会

6 会議内容

(1)開会(省略)

(2)議事

<五十嵐委員長>

第4回委員会から期間が空きましたが、これまで委員の皆様からいただいた多くのご意見を踏まえ、本日は計画案の最終確認を行います。活発なご議論をお願いいたします。

<事務局説明>

資料に基づき説明

<五十嵐委員長>

本日が最終回となりますので、計画案全体についてご意見をいただきたいと思います。なお、欠席の石山委員からは事前にご意見をいただいております。

<事務局>

石山委員からは概ね計画内容についてご理解をいただいております。一方で、グランピングやバーベキュー施設については景観や静穏性への影響を懸念する意見がありました。また、日本平らしさを活かしたお茶体験や地産地消の取り組みを積極的に進めてほしいとのご意見をいただいております。

<小野委員>

計画全体を通して、公民連携の位置付けが重要なテーマになっているように感じます。しかし、11ページの計画の方向性では、その考え方が十分に伝わりません。公民連携の意義や役割を整理し、計画の早い段階で明確に示した方がよいと思います。

また、「資金が流れ込む」という表現がありますが、目指すべきは資金そのものではなく、民間投資を誘導し、空間価値を高めることだと思います。表現の見直しが必要です。

さらに、国指定名勝であることを踏まえ、名勝日本平保存活用計画との関係をより明確に位置付けるべきです。視点場の保全や景観形成に関する考え方を計画に反映する必要があります。

駐車場については、立体化を前提とするのではなく、平面利用の可能性も含めて検討すべきではないでしょうか。山頂部に大規模な人工構造物ができることには違和感があります。

<事務局>

ご指摘のとおり、「資金が流れ込む」という表現については、「投資を誘導する」といった表現への修正を検討します。

保存活用計画との関係については、保存活用計画において都市公園整備を推進することが位置付けられており、本計画がその具体化を担うものと考えております。

駐車場については、来園者目標 200 万人に対応するため必要台数を算定した結果、立体化案を示しています。また、土地利用の効率化や将来的な新たなモビリティへの対応も考慮しています。

<五十嵐委員長>

駐車場については、立体化ありきではなく、今後の事業手法や利用実態を踏まえながら柔軟に検討することも必要だと思います。

<池谷委員>

地域プレーヤーの立場から申し上げますと、来園者増加に伴い駐車場不足が生じた場合、周辺施設の駐車場へ流入することが懸念されます。そのため、一定規模の駐車場確保は必要と考えます。

また、徳富蘇峰ゆかりの4つの碑については、回遊できるハイキングコースとして整備し、それぞれの魅力向上を図っていただきたいと思います。

お茶畑については、景観利用と体験利用の連携を図り、日本平らしい魅力として発信していただきたいと思います。

<事務局>

徳富蘇峰の碑については、保存活用計画にも位置付けられており、アクセスや安全性を踏まえながら整備を検討してまいります。

駐車場については、必要台数を確保した上で、適切な運営方法を今後検討していきます。

<寒竹委員>

計画全体を通して言葉の整理が必要だと思います。「風景」「景観」「眺望」「展望」などが混在しており、日本平の魅力が伝わりにくくなっています。

「日本平風景美術館」というコンセプトを掲げるのであれば、「風景」という言葉を軸に構成し、日本平らしい表現に統一した方がよいと思います。

また、「ゾーン」や「テラス」などの名称も含め、全体のストーリー性が感じられる名称整理が必要だと思います。

<森田委員>

計画を読んでいて、どこまでが具体的な計画で、どこからが将来的なイメージなのかが分かりにくい印象があります。

また、お茶畑が多く配置されていますが、本当にそこまで必要なのか疑問があります。維持管理や運営まで考えた場合、日本平らしさを表現する方法は他にもあるのではないのでしょうか。

<事務局>

既存の茶畑については現状を活かしながら保全する考えです。また、体験茶園については既存事業との連携を前提に位置付けています。

新設を想定している茶畑については、いただいたご意見を踏まえながら今後検討してまいります。

<平松委員>

管理運営の視点をもう少し明確に示した方がよいと思います。

市民参加や地域との連携をどのように進めていくのか、また緑地保全を長期的にどのような考え方で進めていくのかが見えにくい印象です。

さらに、市が主体となって実現したい公園像を明確に示した上で、民間活力を活用するという構成にした方が分かりやすいと思います。

駐車場については、立体化そのものよりも、公園らしい環境配慮型の整備を検討していただきたいと思います。

<寒竹委員>

立体駐車場について否定はしません。重要なのは景観と調和した美しいデザインです。

駐車場を隠すのではなく、日本平らしい景観の一部として魅力的な施設にしていくという発想が必要だと思います。

<事務局>

立体化の理由としては、現状の樹林地や地形特性を活かしながら必要な駐車台数を確保するためです。

できるだけ既存の改変範囲内で整備し、周辺の自然環境や景観への影響を抑えることを考えています。

<五十嵐委員長>

公園整備の主体は市です。その上で民間の知恵や資金を活用するという位置付けが適切だと思います。

計画書の中で特定の施設について民間導入を前提とする表現は慎重に整理した方がよいと考えます。

<関委員>

前は主に動線について意見を述べさせていただきましたが、今回の計画では一定の配慮がなされていると感じています。

一方で、法規制との関係については少し気になっています。緑地保全や各種法規制が複雑に重なっており、公民連携整備エリアにおいて民間事業者が円滑に事業参入できるのかという点に不安があります。

私も日本平ロープウェイも、将来的な施設更新や建替えを検討する時期を迎えておりますので、今後の事業展開に支障が生じないように、十分な整理をお願いしたいと思います。

<五十嵐委員長>

ご指摘のとおり、民間事業者であっても公共事業であっても、法令や規制は遵守しなければなりません。その前提の中で事業を進めることになります。

既存施設についてはこれまでの経緯もありますので、今後も関係法令との調整を図りながら進めていくことになると思います。

<池谷委員>

関連して建ぺい率についてお聞きしたいと思います。

今後、公園内に新たな施設整備が進んでいく中で、民間事業者が将来的に施設整備を行う余地がどの程度残されているのかが気になります。

<事務局>

都市公園法上の建ぺい率には複数の規定があり、施設の種類や事業手法によって適用条件が異なります。

基本的な建ぺい率に加え、一定の施設については上乘せ規定があり、さらに Park-PFI 制度を活用することで追加の緩和措置もあります。

ただし、法的に可能であっても、日本平の景観や風致との調和を考慮しながら判断していく必要があると考えています。

<小野委員>

官民連携の考え方については理解しました。

ただし、41 ページのようなエリア区分を見ると、一部のエリアについては民間事業者が魅力を感じるかどうか疑問があります。

例えばアドベンチャーゾーンについても、具体的な施設内容を決めるのではなく、「このような機能を期待するエリアである」という程度の表現に留めた方がよいと思います。

<五十嵐委員長>

その点は私も同感です。

基本計画では、公園として目指す方向性や機能を示すことが重要であり、事業主体や導入手法を細かく決める段階ではありません。

民間活力の活用は選択肢の一つとして位置付け、その具体的な内容については今後の検討に委ねる形が適切だと思います。

また、石山委員からもご意見がありましたが、全体として大規模開発を連想させる表現が散見されるため、言葉遣いについて再整理する必要があると感じています。

「日本平風景美術館」というコンセプトにふさわしい表現となるよう工夫していただきたいと思います。

<小野委員>

言葉そのものだけでなく、文章構成も整理した方がよいと思います。

丸数字や括弧書きが複雑に入り組んでおり、計画の主旨や構造が読み取りにくくなっています。分かりやすい構成を心掛けていただきたいと思います。

<森田委員>

私も同様の印象を持っています。

具体的な計画として示している内容なのか、あくまで将来イメージとして示している内容なのかが分かりにくい部分があります。

その区別を明確にすることで、市民にもより理解されやすい計画になると思います。

<事務局>

ご意見を踏まえ、具体的に実施する事項と将来的なイメージを区別して表現するよう見直しを行います。

また、施設配置や整備内容については、あくまで名勝日本平の価値と魅力を高めるための一例として示しているものであることが伝わるよう整理いたします。

<五十嵐委員長>

都市公園整備の主体は市であり、その責任も市にあります。

民間活力の導入は整備を進めるための手法の一つであり、市が主体的に公園づくりを進める姿勢を明確に示していただきたいと思います。

<事務局>

本計画では、長年進展が見られなかった日本平公園整備を前進させるための手段として官民連携を位置付けています。

しかしながら、あくまで主役は公園そのものであり、公園の価値向上が目的であることを改めて明確にしていきたいと思います。

<五十嵐委員長>

また、石山委員からは、今回の計画の特徴として、

- ①観光的価値
- ②文化財的価値
- ③市民の日常を豊かにする価値

この3つを同時に実現することが重要であるとのことご意見をいただいています。

この考え方こそが今回の計画の核となる部分であり、市民にも分かりやすく伝わるよう表現を工夫していただきたいと思います。

以上を踏まえ、本日の議論を計画へ反映していただくようお願いいたします。

【各委員からの総括】

<寒竹委員>

日本平は静岡市にとって唯一無二の財産です。全国、さらには世界に誇れる場所となるよう期待しています。

<平松委員>

非常に良い機会をいただきありがとうございました。

公園が良くなれば地域も良くなると思いますので、今後も魅力ある公園づくりを進めていただきたいと思います。

<森川委員>

交通分野の立場から参加させていただきました。

駐車場や園内モビリティについては概ね妥当な方向性だと感じています。今後は周遊性の向上や関係事業者との連携が重要になると思います。

<森田委員>

日本平が、家族連れや子どもたちが何度も訪れたくなる場所になることを期待しています。

また、計画全体の考え方をよりシンプルに伝えられるよう工夫していただきたいと思います。

<小野委員>

全体として非常に意欲的な計画だと感じています。

一方で、言葉や図表がやや多く、伝えたい内容が分散している印象もあります。より簡潔で分かりやすい表現になることを期待しています。

<関委員>

短い期間でしたが参加させていただきありがとうございました。

日本平で働く立場として、今後さらに魅力的な場所になることを期待しています。

<池谷委員>

地域プレーヤーとして参加させていただき、多くの学びがありました。

この計画を着実に実現し、日本平が再び全国を代表する観光地となることを期待しています。

<五十嵐委員長>

これまで長期間にわたりご協力いただきありがとうございました。

今回の計画が策定で終わることなく、速やかに次の段階へ進み、具体的な整備へつながることを期待しています。

市にはぜひ主体的に取り組んでいただきたいと思います。

また、今後も委員の皆様にご相談する機会があるかと思しますので、その際は引き続きご協力をお願いいたします。

<事務局>

今後、委員の皆様からいただいたご意見を反映した上で、7月にパブリックコメントを実施する予定です。

その後、市民意見を踏まえて計画を修正し、9月頃の計画策定を目指しております。

引き続きご協力をお願いいたします。

(3) 閉会挨拶

<公園建設管理課長>

本日はご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございました。

また、第1回委員会から本日まで長期間にわたりご審議いただき、数多くの貴重なご意見、ご提言を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

今後とも本市の公園行政に対しまして、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、委員の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

(4) 閉会(省略)

【議事録署名人】

委員長

委員
